



55周年
鏡開き

<特集>

アイメイト55周年記念式典
第36回アイメイト・デー

地方開催第3弾

「歩み展in津田沼」開催報告

大成功！



和太鼓
「梵天」

TOPICS

- アイメイト募金活動の 現在・過去・未来
- 「2013 アイメイトサポートカレンダー」完成!!

協会だより

アイメイト卒業生人数
アイメイト募金実績報告
協会からのお願い(イベントについて)

連載記事

- 後援会員なら知っておきたい
～知ればもっと面白くなる視覚障害者スポーツ～
- 新連載「飼育日誌」～子犬が家にやってきた～
- リレー自己紹介【後援会】(小林恵美子さん)
(谷沢恵子さん)
- 同窓会自己紹介リレー (幸野憲繁さん)



歩み展 in 津田沼

協会スタッフによる
デモンストレーション

特集記事を
読んでね!



後援会からのお知らせ

- これまでの行事・活動&これからの行事・活動
 - 新グッズのご案内
 - アイメイト募金芳名録
 - 役員会議事抄録
 - 会員のページ
- 映画のご紹介 工藤夕貴さん出演「カラカラ」

アイメイト55周年記念式典

日程：2012年9月30日（日）
13:00～14:50

場所：帝国ホテル 富士の間

参加者：計478名

（うちアイメイト使用者は73名。）

アイメイト協会卒業生、アイメイト後援会、
飼育ボランティア、関係企業・団体など）



2012年9月30日（日）、帝国ホテル（東京都千代田区）にて、第36回アイメイト・デーとして、「アイメイト55周年記念式典」が開催されました。参加者は合計478名。うち、アイメイト使用者は、計73組が東北や九州など全国16都府県から集いました。これだけ多くのアイメイトが、伝統と格式ある帝国ホテルに集う光景は壮観でした。お祝いの和太鼓演奏もあり、盛大な式典となりました。



55周年を祝う 和太鼓の演奏で開会

式典は、和太鼓「梵天」によるお祝いの演奏からスタート。続いて、塩屋隆男代表理事の挨拶、来賓挨拶がありました。その後、ご祝辞をいただいたご来賓の方々に、アイメイト歩行を体験していただく一幕も。皆さ

ん初めての経験とあって、最初は少し緊張していた様子でしたが、アイメイトとしっかり歩いた後は、表情も晴れやかになっていました。

鏡開きと乾杯 三遊亭若圓歌師匠

そして、お祝いの鏡開きの後は、昨年のアイメイト・デーでお馴染みの三遊亭若圓歌師匠による乾杯。式典に集った約500名による「アイメイト！」の声が、会場に響きました。

全国16都府県から 計73名の使用者が参加

北は福島、新潟から、南は鹿児島まで、全国16の都府県から





アイメイト55周年を祝う鏡開き

計73名のアイメイト使用者が集まりました。

ちなみに、出席したアイメイト使用者で最高齢だったのは、式典でスピーチもされた佐藤憲さん（80歳、石川県）。アイメイト使用歴も出席者中で最も長く、昭和45年に第48番目の使用者になったベテランです。佐藤憲さんは、アイメイトが社会に

受け入れられるよう、塩屋賢一さんとともに精力的に活動した方で、運輸省（当時）や日本観光連盟、レストラン協会、ホテルなどへ説明して回りました。国鉄（当時）、飛行機、バスなどの自由乗車も、佐藤憲さんが実際にアイメイトを使用している姿を見せて説得したことが大きな力になり、社会の受け入れが進んでいきました。

■ 工藤夕貴さんも ■ お祝いの歌を披露

女優の工藤夕貴さんがお祝いにかけつけ、「いい日旅立ち」を歌うなど、式典を華やかに盛り上げてくださいました。工藤さんは、約20年前にアイメイト協会を訪問。それ以来、強力なサポーターとして協会を支援していただいています。



協会と一体となって 運営をサポートした アイメイト後援会。 計52名の後援会員で 誘導・受付などを分担。

■運営サポートに、後援会員が活躍 ■「誘導」「受付」「袋詰め」など

式典開催にあたっては、運営のサポート役として後援会員が大活躍。計52名の後援会員が朝から集まり、記念式典のスムーズな運営をサポートしました。

まず、使用者が有楽町駅から会場に来るまで、そしてテーブルにつくまでをサポートする「誘導」係。使用者に目的の方角がわかるように、「まっすぐです」「右へ曲がってください」といった感じで、声で誘導します。また、ビュッフェ形式だったため、食事や飲み物ををとってくるサポートも行いました。

会場入り口では、受付係を担当。使用者をはじめ、関係者や支援者、報道関係を含むすべての来場受付を担当しました。

さらには、アイメイトグッズの販売、記念品の袋詰め、記念品をお渡しなど、協会スタッフと協力しながら、式典を盛り上げました。

55周年記念式典とあって、通常のアイメイト・デーよりも参加者が多かったため、準備不足な点もあったことは反省点です。次回は改善をして臨みたいと、スタッフ同士で話し合いました。



■「歩み展」のパネルを一部展示 ■アイメイトグッズの販売も実施

会場の入口脇には、「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展」のパネル（一部）が展示されました。アイメイト協会の創設者であり、日本で初めて国産盲導犬の育成を実現した塩屋賢一さんの歩みを、正しく伝えていこうという展示パネルです。多くの参加者がじっとパネルに見入っていました。

また、塩屋賢一さんから歩行指導を受け、アイメイトとともに最初に歩き始めた河相洌さんの写真パネルも、新たに制作して展示しました。河相洌さんは、チャンピオンと歩き始めた頃に撮影された写真をご自宅に大切に保存していました。55周年というこの機会に、そのアルバムをお借りし、一部を後援会がパネル化して、展示しました。

アイメイト・デー恒例のグッズ販売も盛況でした。2013年版のサポートカレンダーをはじめ、新作グッズも勢揃い。売上は計454,400円でした。



■日本で最初に盲導犬同伴での宿泊を受け入れたのが、帝国ホテル

まだ、日本に盲導犬事業が立ち上がる前、それも戦前の1938年（昭和13年）に、帝国ホテルはすでに盲導犬を伴っての宿泊を受け入れていました。宿泊したのは、世界旅行をしていた盲目の米国人ゴルドン氏と盲導犬オルティ。東京見物に上京したゴルドン氏がオルティとの客室利用を希望し、帝国ホテルが宿泊を受け入れたのです。

その時の様子は、当時の新聞各紙（東京朝日新聞、読売新聞など）が報じました。『東京朝日新聞』（昭和13年3月22日付）の見出しは、こうです。

「帝國ホテルに未聞のお客
盲導犬の宿泊に涙的一幕」

帝国ホテルはその後も、身体障害者補助犬法の施行（2002年）を待つまでもなく、1970年代には盲導犬同伴での宿泊を受け入れていました。この55周年記念式典は、そんな縁のある場所で行われたのでした。



■アイメイト 55 周年記念誌 ■「視界を拓くパイオニア」

記念式典に合わせて制作されたアイメイト55周年記念誌「EYEMATE ---- 視界を拓くパイオニア」が、来場者全員にプレゼントされました。

この記念誌は、盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトが歩んできた55年の歴史を振り返るとともに、これから未来に向けた強い思いを表現した一冊となっています。歴史だけでなく、協会の事業や多くのアイメイト使用者へのインタビューなども多数の写真とともに掲載されていて、アイメイトについて深く、正しく知ることができる記念誌です。

特に、第1号チャンピイの使用者 河相洸さんなど、協会や支援者とともに時代を切り開いてきた使用者などからの、“今だからこそ伝えたい”メッセージは必見です。まだ、差別が残る時代、そうした中でも自由に歩くために、社会へ受け入れを訴えてきた先人たちの言葉の数々が記されています。

「歩み展 in 津田沼」 開催しました。

日程：2012年10月7・8日（日・月祝）

会場：モリシア津田沼（千葉県習志野市）

展示時間：7日 10:00～21:00

8日 10:00～18:00

主催：アイメイト後援会「盲導犬の父 塩屋賢一と

アイメイトの歩み展 in 津田沼」実行委員会

協力：公益財団法人アイメイト協会

後援：千葉県、習志野市、船橋市

■歴史とボランティア活動のパネルを展示 ■数々の困難と、社会への啓発、普及を辿る

商業施設の1階中央に位置する、吹き抜けの会場に展示ボードを設置し、「歩み」パネルを展示しました。歴史、ボランティア、そして新たに追加された河相涸さんとチャンピイの写真など、計約90点ものパネルを展示し、アイメイトへの理解促進と普及啓発を行いました。

■告知記事から当日の取材まで ■多くのマスコミが注目した「歩み展」

実行委員会の尽力により、多くのマスコミで「歩み展in津田沼」の情報を紹介していただきました。初日である10月7日には、朝日新聞をはじめ、地元の千葉日報など計3社が取材に訪れ、アイメイトを応援してくれました。

朝日新聞 2012.10.10



目の仲間、育てた歩み紹介
習志野で盲導犬の父・塩屋賢一さん展

ならしの朝日 2012.10.5



千葉日報 2012.10.8



■アイメイトの普及・発展を支援する「歩み展」

2012年10月7・8日（日・月祝）、JR総武線 津田沼駅前の商業施設『モリシア津田沼』（千葉県習志野市）で、「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展in津田沼」を開催しました。

準備から当日の対応、片づけまで、スタッフとして参加した後援会員はのべ43名！ 県内のみならず、東京、埼玉、神奈川から参加したメンバーもあり、みんなの力で成功させた「歩み展」でした。会場のモリシアさんから、展示ボードの設営や特別な赤絨毯などの手厚いサポート。感謝です！

■国産盲導犬第1号・河相涸さんとチャンピイ ■新発掘の写真35枚をパネルにして展示

いまから55年前の夏、アイメイト協会の創設者・塩屋賢一さんから歩行指導を受け、日本で初めてアイメイトとともに歩き始めたのが、国産盲導犬第1号チャンピイの使用者・河相涸さんです。

河相涸さんは、チャンピイと歩き始めた頃に撮影された写真をご自宅に大切に保存していましたが、記念すべき55周年というこの機会に、協会にそのアルバムをご提供くださいました。大切なアルバムは、デジタルデータにアーカイブ化して協会に保存するとともに、その一部をここにデジタルリマスターしてパネルにし、展示させていただくことになりました。

ハーネスを外して家でくつろぐチャンピイや、河相さん、そしてご家族と楽しそうしている様子など、当時の様子が伝わってくる貴重な写真の数々。来場された皆さんも、じっと見入っていました。



■ アイメイト協会職員によるデモンストレーション ■ アイマスクをしてアイメイト歩行を体験

会場となった『モリシア』のセンターコートに設置された特設ステージで、協会職員によるデモンストレーションが行われました。“アイメイト”という言葉の意味にはじまり、アイメイト歩行や訓練の実際について実演がありました。そして、時には会場の集まった方々を巻き込んでのQ & Aも。町で使用者に出会ったときにはどのように接すればよいかなど、障害の有無にとらわれることなく、共に暮らしていくためのアドバイスがありました。

ステージの次は、アイマスクを装着しての体験歩行。特別に赤い絨毯が敷かれたスペースに、イスやロープで設定したジグザグコースを設定し、アイメイトとともに往復しました。ロープの下など、犬だけなら通れるような空間をあえて設定した難度の高いコースでしたが、アイメイトたちはきちんと誘導していました。



■ アイメイトを支援するチャリティーグッズを販売 ■ 募金とグッズ売上でも、アイメイトを支援

商業施設ということで、グッズ販売や募金活動も行えました。三連休とあって人出も多く、多くの方に立ち寄っていただきました。マイボトルやカレンダーなどの新グッズ、そして恒例のTシャツやぬいぐるみ「あいと」君などを販売し、2日間の売上は191,400円、募金は21,298円となりました。



■ 感動。そして再会を願って。 ■ 参加した後援会員の感想

● 短いようで長い3日間、皆さんと一緒させていただきありがとうございました。印象的だったことは数多いのですが、ギャラリートークで鈴木会長宅で誕生した黒ラブが、アイメイトとして若い使用者の方とお越しいただけたことに感動しました。

体験歩行で頑張っていたアイメイト訓練生(犬)が、近い将来に使用者のもとで活躍してほしいと願いつつ、何年後かの歩み展のギャラリートーク(に限らず)で再会したいなあと思いました。

協会の歩行指導員の方とも接することができ塩屋賢一さんのポリシーを継承されていることを実感しました。(大西さん)

● 津田沼歩み展は大成功！横浜にも参加しましたが、津田沼は立地条件も良く、ショッピングセンターの会場は明るく、来場者も幼児から年配の方までと広がりました。スタッフの熱い思いが伝わって頑張れました。ステージで指導員の話や使用者の話(畑井さんが編み物をするなど)に感動しました。

アイメイトは日常めったに会う機会が無いので、働く姿を見る

ことが出来て嬉しかったです。現在、5頭目の飼育奉仕中ですが、モチベーションがアップしました。主人も設置から撤収まで微力ながら手伝うことが出来、歩み展が成功したことに感謝しています。(澤山さん)



アイメイト募金活動の現在・過去・未来

約40年前から続く街頭募金活動。 ぜひ、参加しましょう！

街頭や駅前で行われるアイメイト募金活動。その歴史は古く、発端は40年ほど前に遡る。当時、盲導犬に興味を持った一人の大学生が、友人とともに手作りで始めたのがきっかけだ。ガリ版印刷で啓発を呼びかけ、普及と啓発のための署名活動も行った。そんな募金活動について紹介する。

■数寄屋橋「KOBAN」前で ■お馴染みとなったアイメイト募金

週末の銀座数寄屋橋交差点。スクランブル交差点の信号が青になると、人の流れが方々から押し寄せる。どっと向かってくる人に向かってタイミングよく腹から声を張り上げる。

「もーどーけんの育成支援ボキンにご協力をおねがいしまーっす」

微笑みを投げかけ、片手にはチラシ「こんにちワン」、胸には特製募金箱を抱えて。ライオンズクラブのイエローベストに合わせて作ったお揃いのアイメイトベストを着てポイント地点に立つ。ポツリポツリではあるけれど、確実に募金箱の重さを感じてく

る。1時間もするとやや手首に負担がかかってくるが、それも気にならない。数寄屋橋「KOBAN」前のすっかりお馴染みの風景だ。

■活動に欠かせない犬達の存在 ■目に触れる機会とともに、啓発のきっかけに

この数寄屋橋募金活動は、東京のいくつかのライオンズクラブから企画があがり、後援会はそのに協力して行う形だ。今は主に銀座の他、川崎の他、吉祥寺などで行っている。

そこで欠かせないのは犬達。リタイア犬、飼育犬、不適格犬、繁殖犬など、アイメイト関連の犬を飼う後援会員は可能な限り犬連れだ。もちろんアイメイト

使用者のペアが参加されるとより理解が深まる。

多い時で10頭ほどになり、銀座の繁華街でお行儀よく大型犬が揃う姿は圧巻だろうと、想像してみたりする。実際には自分は犬と立っているの、歩行者から見てどのように映っているのだろうか。通りかかる人たちが皆が犬を見て顔がゆるんだりしている。かなり存在感は大きいはずだ。

午後2時から5時までの3時間ほどで、すっかり声もか



数寄屋橋募金活動（2012. 9. 17京橋LC）

れ、重くなった募金箱 10 個ほどを回収する。犬も終わりが解って、帰りたい様子で甘えてくる。「お疲れ様でした！」の声も明るく、足取り軽く解散となる。当日に金額の報告があり、今日も好結果だったと満足する。



数寄屋橋募金活動（2012. 9. 22 城東 LC）

■発端は40年ほど前

■一人の大学生が吉祥寺の駅前で始めた

そんな募金活動は後援会の歴史を辿れば、発端は40 年ほど前に一人の大学生が学生友達を中心に、ベニア板にペンキを塗った手作り募金箱で、手書きガリ版印刷物を配り、署名活動まで行った。地元の吉祥寺駅前から渋谷、伊勢丹や東急デパートでも指導員が訓練犬とデモンストレーションを行った。この頃の募金活動の参加者は後援会員より同窓会員（アイメイト使用者の会）が多かったようだ。

■その約20年後、「菜の花募金」がスタート

■新施設建設のために一丸となって活動

そして 20 年ほどの時を経て、アイメイト協会新施設の建設資金支援の為、アイメイト協会同窓会が発起人となり「菜の花募金」が始まった。もちろん後援会も一緒になって活動した。この時の募金箱は

厚紙製の折りたたみ式で、依頼書、趣意書と共に多方面へ郵送して賛同を求めた。この「菜の花募金」の詳細は又の機会にすると、とにかく以上の経緯があって、現在の募金活動があるのだ。

■街頭募金活動は、生の声を直接届ける活動

■説明やふれあいを通じて理解を深めるために

募金箱の設置と違って、街頭募金活動は単に募金を集めるだけでなく、生の声を直接届けるという目的がある。声掛けにより相手からも反響があるからだ。盲導犬に関する様々な質問や、ボランティアについて、時には白杖の視覚障害者から尋ねられる事もある。正しい情報を伝える事で、アイメイトを理解して貰えるものと信じている。活動時期として最高のシーズンは春と秋ですが、今度皆さんも参加してみませんか？



数寄屋橋募金活動（2012. 9. 22 城東 LC）



川崎駅募金活動（2012. 10. 13 川崎橋 LC）

New Goods

アイメイトグッズにぞくぞく新顔が登場！



アイメイト印のマイボトルに 真空ステンレスボトル(300ml) ￥800

真空構造で保温保冷機能に優れています。
スマートで軽くおしゃれな誰でも持てるデザイン。



アイメイト印がポイント フック付きキーホルダー ￥600

小ぶりの三連タイプ。フック付き。
大きさ:イラスト部分直径 19mm



手作りの温もりを感じる 編みストラップ ￥600

手作りなのでひとつひとつ表情が違います。
大きさ:縦横 45mm



裏地と同柄の巾着付き♪ サブートバッグ ￥1,900

刺繍・ビーズ・リボンをちりばめたおしゃれなバッグ。
マグネットボタン止め。裏面にファスナーポケット付き。
サイズ:幅 23×高 20×マチ 10.5cm
素材:本体/綿 100%、持ち手/合成皮革

<ご購入方法>

Web「グッズショップ」or直接、鈴木節子までご連絡ください。

※お買上 5 千円以上は送料無料・未滿は 500 円(沖縄を除く)

※お支払は代引にて、手数料 300 円

『オンラインショップ』:<http://www.moudouken-shop.com/>

TEL:03-3878-7353/FAX:03-3675-8588

E-mail:eyemate-goods@jcom.home.ne.jp

「2013 アイメイトサポートカレンダー」完成!!

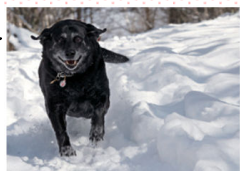
お待たせしました! 今年も写真家・内村コースケさんの撮り下ろし写真が満載の『2013 アイメイトサポートカレンダー』が完成しました。登場する人も犬もイキイキしていて素敵です。裏表紙ではアイメイト後援会の活動内容を紹介。カレンダー販売の収益は全てアイメイト協会に寄付いたします。送料・振込手数料ともに無料です。是非、お買い求めください。



1月から12月までの写真を紹介

1月 不適格

走る、はしゃぐ! 真っ白な雪を蹴りこまでも、愛と幸せを届ける使者となって。
※今号の「リレー自己紹介」にご登場の谷沢恵子さんの相棒・ランランです。



1 January

不適格



2 February

現役



3 March

訓練



4 April

不適格



5 May

リタイア



6 June

飼育



7 July

飼育



8 August

繁殖

9月 歩行指導

横断歩道の前で止まったら「Good」と褒めます。歩行指導中も「誰かに見られているかも」と誇りを持って。



9 September

歩行指導



10 October

繁殖



11 November

現役



12 December

繁殖

8月 繁殖

繁殖奉仕家庭で生まれたかわいい子犬たち。愛が溢れて、人と犬が癒し、癒される日々が続きます。

11月 現役

ご主人の左手と信頼で結ばれたアイメイト。ハーネスは絆となって目の代わりに。

毎月の写真はこちらのHPでご覧になれます。→http://eyemate-support.org/2013_calendar.htm

価格: 1部1,000円(送料無料で) お支払いはカレンダーに同封の郵便振込用紙(手数料無料)をお使いください。

お申込み方法:

- ・Web『アイメイトサポートグッズ オンラインショップ』: <http://www.moudouken-shop.com/>
- ・お電話・ファックス・メール: 鈴木 薫まで。お名前、ご住所、電話番号、購入部数をお知らせください。
TEL: 03-3878-7353/FAX: 03-3675-8588/E-mail: eyemate-goods@jcom.home.ne.jp

飼 育 日 誌

アイメイトの飼育奉仕って、実際はどんなふうに行われているのでしょうか？ この春から5頭目の飼育奉仕を始めた後援会員（東京都在住）の飼育日記から、幸せな毎日をご紹介します！

※協会の方針に則り、子犬の名前は仮名の「アイちゃん」としています。



子犬が来る1週間前

飼育奉仕の登録から約半年、もうすぐ子犬が我が家にやって来る。犬用食器や爪切りなどの小物の確認、トイレシートの購入。ドッグフードは協会から5日分貰えるが、事前に購入した。犬の行動範囲となる1階の床のワックスがけを頑張った私、偉い！ 大変だったけどピカピカになってうれしい。

リビングの端に、オリジナル犬用ハウスを組み立てる。トイレと寝るスペースの細長いハウス（70cm×200cm）です。ドア付き、開閉式の屋根付きで、考えながらビニールひもで縛っての組立てに一人で2時間半かかった。

ハウスを隠す遮光カーテンを出して洗濯。ハウスの中に敷く犬用バスタオルは洗濯済みでも1年半しまい込んでいたので臭かった。前の子犬達の毛が付いている。最初の頃は、すぐ汚すので、犬用におろした古いバスタオルを何枚も洗濯する。

ゴミ箱の工夫も忘れずに。特に台所のゴミ箱は不便でも、高い位置へ移動。

これで、万全か？ ドキドキ。

子犬が家にやってきた！

ある春の土曜日。子犬が家にやってくる日。前日に協会から、10時頃に到着予定と連絡があった。今日は娘は定期テスト、息子は関西へ旅行、パパはゴルフと、家には私一人。ドキドキ。ワクワク。

協会の車の助手席側から、歩行指導員さんの手で小さなキャリーが運び出されました。濃い青のキャリーの間隙から様子を伺おうとして…。あれ？子犬が見えない…。もしかして、黒だから見えない？

リビングで、キャリーを開ける時、指導員さんが、「中でおしっこしちゃってる。さっきまではおしっこなしで、よく眠っていたんだけど…」。

感動の初めてのご対面は、まず濡れた足とキャリーの中のを拭くのにちょっと慌てた状況の中（汗）。やっぱり黒、黒ラブのメスでした！

座って、渡された飼育記録用紙を見る。生後2か月と6日か。体重は5.5キロ。アイちゃんね。ようこそ我が家へ。私がママよ♪

今回の飼育奉仕の登録にあたっては、オス・メスや色の希望は言いませんでした。協会にお任せします、運命の出会いを待っています！ということで。

指導員さんのお話を聞いている間、アイちゃんは、リビングをグルグル走り回る～。クンクン嗅ぎまわるでもなく、とにかく走る。誰も追いかけないのに。速い、猛ダッシュ。あら？あれれ？走るの大好き？

「協会に居る間は、とってもおとなしい子犬だと思っていたんですけど…」と、指導員さん。

1週間の協会暮らしは、成犬に囲まれてる。もしかして猫かぶっていたのか!?



5頭目の飼育奉仕がスタート

飼育日誌 No.1

さいしょの2週間

子犬を迎えて、最初の頃のお悩みは、なんといってもワン・ツー問題でしょう。そう、おしっこ・うんちのトイレのしつけです。

私は、ハウスの中のトイレでおしっこができれば、うんと褒めて、ご褒美としてハウスから出してあげています。これを繰り返すと、すぐトイレを覚えます。うまく教えれば、ほんの数日です。

アイちゃんの場合、起きている時はだいたい1時間で次のおしっこが出てました。できるだけ失敗の確率を減らすため、ハウスから出す時は、40～50分でハウスに戻すようにしました。

成功率8割くらいにはすぐなるんですがね～。自分でハウスに戻ってトイレを済ませることができるようになると、こちらも安心してしまい、1日に1回くらいは失敗、という感じになります。

子犬が家に来た最初の頃は、おしっこの回数も多いです。1日に20回くらいです。うんちの回数も1日5回！体が大きくなり、お散歩に出るようになると回数は減ってきます。

アイちゃんは、トイレが汚れていると、トイレに前足だけ入れて、後ろ足は外ということも。当然おしっこは、ぎりぎりトイレの外で、アウト…。これは、叱れません。



初日。走り疲れて。



4日目。ハウスの中で。



生後3カ月に。

梅雨入りが気になる頃

犬用トイレでの排泄が、ほぼ完璧になりました！なので、アイちゃんの行動範囲は、LDKのみから、家族と一緒に和室以外の1階はOKになりました。玄関にお出迎えができるように。ただし玄関に人が来てもたたきに下りない様にしつけます。今日は宅急便のお兄さんに玄関でご挨拶。ちょっとこわごとと頭をなでたお兄さん。すぐにお腹を見せて甘えるかと思いきや、横にはならなかった。あら、数日前家に遊びに来た犬好きの友達にもご近所の方にもお腹を見せたのに、早くも人を見るのか？

午後ソファで一緒にお昼寝。ちょっと幸せな時間。その後ハウスに入れて、2階に居た息子に留守番を頼んで買い物に出かける。約1時間で帰ってくると息子は1階に居たが、犬用トイレは3回分の汚れ。子供達にあまり期待してはいけないか。

実はずっとアイちゃんはお腹をこわしていたので、給餌の回数を4回に増やして1度の量を減らし、エサを水でふやかして与えていた。でも食欲もあって、とっても元気。体重も約7キロと順調に増えている。今日から3回食に戻そうとしたのに夜エサを吐いた…。まだまだ手がかかる。あ～あ。

身体も大きくなり、もうソファに自分で登れるようになりました。子犬の成長は本当に早いと実感！

アイちゃんが協会に戻るまで約1年。「ミニ通信」ではそのときまで、飼育日誌として追い続けたいと思います。これから、どんどん成長していく未来のアイメイト。どんなドラマが待っているのでしょうか。請うご期待！

後援会員なら 知っておきたい

～知ればもっと面白くなる視覚障害者スポーツ～

今年はロンドンオリンピックやパラリンピックがありましたね。オリンピックでは競泳や体操などの競技でメダルラッシュに沸き、パラリンピックでは女子のゴールボールや柔道で金メダルを獲得するなど日本中が喜びに包まれました。“障害があるから”ではなく、自分の限界に挑む選手たちの姿は清々しく、観戦している方もつつい拳を握って「日本、がんばれ～」なんて声に出しちゃって、真剣に応援してしまいました。

オリンピックと同じ競技名でも健常者が取り組む場合とルールが異なっていたり、パラリンピックならではの競技もいろいろあるのね、と興味をもった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで、今号では視覚障害者スポーツについてご紹介します。調べてみると、いろいろな種類があることが分かりました。今回はアイメイト使用者が実際に取り組んでいるスポーツを中心にをご紹介します。

＜ブラインドテニス＞

ブラインドテニスは日本で生まれ、視覚障害者のスポーツの中で、球を転がすのではなく空中に浮いたボールを打つ、3次元の画期的なスポーツです。

ショートテニス用のラケットと音の出るスポンジボールを使って行われます。通常のテニスは1バウンドで返球しなければなりません、競技クラスにより1バウンド～3バウンドまで認められています。

視覚障害者同士で対戦するシングルスを公式競技としますが、交流を目的としてミックスダブルス（晴眼者とペア）もあります。



＜サウンドテーブルテニス＞

テーブルはエンドラインと両サイドの一部にフレームを取り付けたものを使用します。ボールは通常の卓球のボールの中に金属粒4個を入れたものを用い、ラケットも卓球の公認ラケットですが音がするようにラバーを貼っていないものを使用します。

競技はネットの下を通し、互いにボールを転がすように打ち合います。競技者は通常はアイマスクを着用。音を頼りに行う性質上、騒音には注意し、審判の判断で競技を中断することもあります。

＜ブラインドゴルフ＞

ブラインドゴルフは、健常者とほとんど変わらないルールと、まったく同じ道具を使ってプレーすることができるスポーツです。

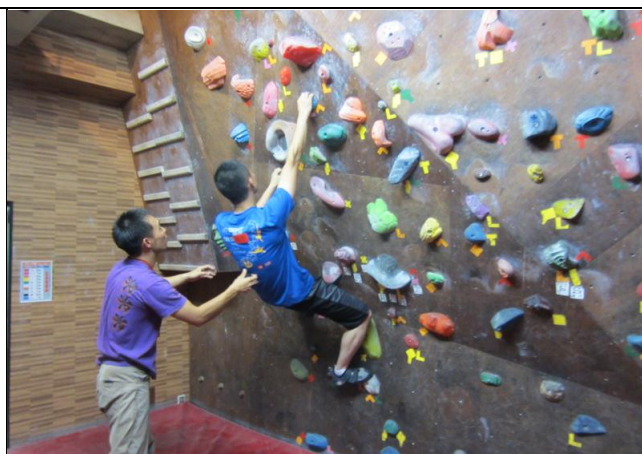
ブラインドゴルフでは、晴眼者（パートナー）が視覚障害を持つプレーヤーの目の代わりとなります。パートナーは、ボールの位置、打つ方向、残り距離、スタンスの取り方、コースの状況、バンカーなどの障害物の場所などをプレーヤーに分かり易く教えます。ショットの前に、パートナーがプレーヤーのクラブに触れてセッティングを手伝います。



＜ブラインドクライミング＞

現在日本では、競技としてではなく楽しむためのスポーツとして、ブラインドクライミングが普及しつつあります。対戦相手や飛んでくるボールなどもなく、自分自身のスピードで課題と対峙し、解決していく楽しさと達成感が味わえるスポーツです。

フリークライミングとは、安全を確保するためのロープ以外に道具を使わず、自分の体力と技術だけで自然の岩場や屋内の人工壁を登るもので、クライミングロープによって安全が確保されているため、思い切って体を動かすことができます。



＜視覚障害者柔道＞

柔道はあまり工夫せずに健常者と共に練習や試合ができるので、視覚障害者が健常者に混じって楽しんでいったという古い歴史があります。

試合は両者がお互いに組んでから主審が「はじめ」の宣告し、試合中両者が離れたときは主審が「まで」を宣告し、試合開始位置に戻ります。場外規程は基本的に適用しません。

＜マラソン＞

視覚障害者のマラソンについては、現在では日本中のどこの大会にも参加できるようになりました。競技会などでは障害の程度によってクラス分けがあります。

弱視者で単独で走れるランナーを除き、一般には伴走者（ガイドランナー）が必要です。伴走者の技量は視覚障害者ランナーが走る時の安全性・快適性・記録などに大きな影響を与えることとなります。伴走はロープを使って行う場合が多く、お互いの手にロープを握り、言葉で走路の状況と進路などを伝えてガイドします。



＜ブラインドセーリング＞

ブラインドセーリングは、視覚障害者と晴眼者がチームを組んで行なうヨット競技です。特別なヨットではなく、通常のヨットをそのまま使用します。

ブラインドセーラーが、ヘルム（舵）とメインセール（大きな方のセール）のトリム（調節）を担当し、同乗する晴眼者2名のうち、1名はヘルムスパーソンの眼の役割をして風の方向や状況説明を行い、もう1名がジブセール（小さい方のセール）を担当します。晴眼者はそれぞれ、口頭でのアドバイスや指示またはジブセールのトリム以外、操船に関わることはできません。

ほかにも、球技にはゴールボールやグランドソフトボール、フロアバレーボールなどの種類があり、アルペンスキーやクロスカントリースキーなどのウィンタースポーツもあります。

サウンドテーブルテニスやゴールボール、グランドソフトボールなどは、選手たちがボールの中に入っている鈴の音や、ボールの転がる音を頼りにプレーするため、観客は静かに観戦するのがマナーです。

ルールや観戦のマナー、見どころを知れば、視覚障害者スポーツの観戦がもっと面白くなりそうです。